

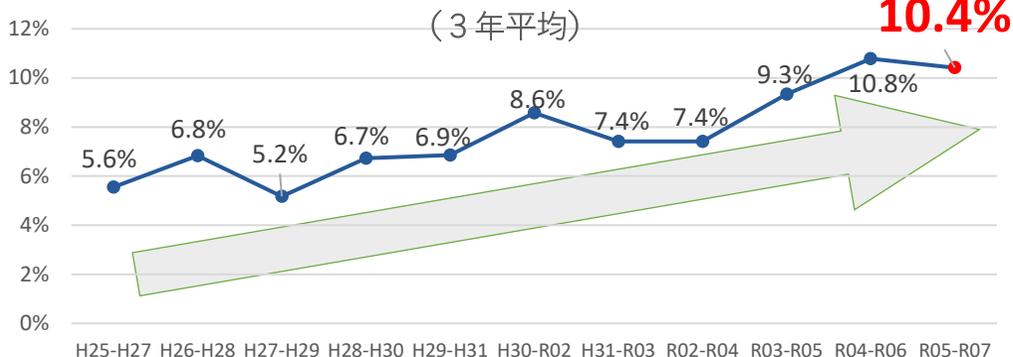
(参考) 府省等における採用・活躍事例

文部科学省における博士課程修了者の採用について

文部科学省職員（総合職）における採用状況

博士課程修了者を積極的に採用。

総合職採用者数に占める博士課程修了者*数の割合



H25-H27 H26-H28 H27-H29 H28-H30 H29-H31 H30-R02 H31-R03 R02-R04 R03-R05 R04-R06 R05-R07

*入省の段階で論文審査継続中等の博士課程修了見込み者を含む

- 総合職採用者数に占める博士課程修了者の割合は令和4～6年度採用者平均以降、**1割**を超え、今後も**更なる増加を目指す**。

文部科学省における博士課程修了者の活用促進

職員の適性や希望に配慮しつつ、博士の持つ能力を最大限に活かした柔軟な人事に向けて環境を整備。

- 博士ならではの能力・専門性を活かした**人事配置、キャリアパス構築
- 人事評価を踏まえた**昇任・昇格に係る期間の短縮** 等

＜博士人材に期待する能力や強み＞

①企画・創造性

試行錯誤しながら、俯瞰的視野を持ち、エビデンスに基づいて新しい政策を開拓

②分野専門性

博士号取得分野に関する専門的な知見・経験や人的ネットワークを活用

③国際性

深い知見に裏打ちされた信用に基づき、国際的な交渉・協調を推進

活躍事例① 博士（理学），H31入省

これまで科学技術に関する国際協力や研究者の交際交流、大学等における学術研究・基礎研究振興政策のとりまとめ等を経験し、自身の専門分野である生命科学分野の研究開発の振興にも従事。現在は高等教育政策全体のとりまとめ・総合調整を担当。



活躍事例② 博士（理学），R4入省

入省後、宇宙開発にかかる研究開発政策や、科学技術・イノベーション政策全体のとりまとめに従事。現在は、自身の博士課程の経験も踏まえながら、多様なフィールドで博士人材が活躍する社会の実現を目指し、大学院教育政策の企画・立案・推進を担当。

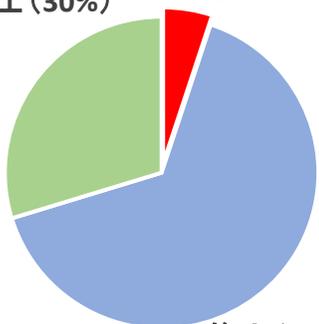


特許庁における活躍の場（特許審査官・審判官）

- 大学院で培った専門知識を活用し、**審査官**として、企業等の出願する**先端技術**についての**特許を審査**
- 経験を積んだ後は、**審判官**となり、専門知識と法律知識を活用し、**特許に関する事件を審理**
- 大学・国際機関・裁判所等への派遣、システム開発、技術動向調査等、**多彩な業務の経験機会あり**

特許庁における採用状況

学士(30%) **博士(5%) 多彩な分野の博士が活躍**



修士(65%)

<主な専攻分野>

- ・物理学
- ・天文学
- ・地球惑星科学
- ・数理物質科学
- ・量子エネルギー
- ・分子工学
- ・基礎理工学
- ・精密工学
- ・機械制御システム
- ・化学
- ・生物化学
- ・分子薬学
- ・医学
- ・メディカルゲノム
- ・分子細胞生物学
- ・人間・環境学
- ・応用動物科学 他

特許庁で活躍する先輩職員

博士（天文学） 平成28年入庁

審査官としてロボティクス等の特許審査を担当。また併任業務として特許文献機械翻訳に関する情報システム業務や、対欧州の国際業務を担当。天文学の専門知識が役立つ場面もあるが、先端技術や法律の理解、庁内情報システムの把握、国際渉外など、博士経験そのものが至る所で生きる職場だと実感。



博士（工学） 平成18年入庁

海外知財庁間における出願・審査情報共有システム構築・標準策定のための国際交渉、新興国知財庁のITシステム構築支援を担当。これまでも、海外知財庁との審査協力、特許制度改正、企業やスタートアップ、大学等における知財活用促進等の様々な知財行政に関与。



防衛省・防衛装備庁における博士号取得者の活躍について

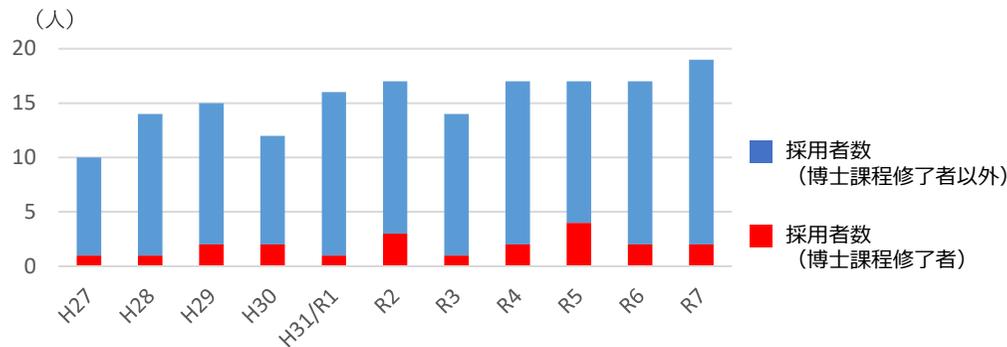
～研究開発系技官の例～

防衛省・防衛装備庁における研究開発系技官

- 防衛省・防衛装備庁において研究開発に従事する技官は**研究職**として、装備品等の研究開発プロジェクトの実施や、技術政策の企画・立案に従事
- 約**630名**のうち、約**170名**が博士号を保有
- 博士としての**専門的知見**、**研究マネジメント力**を活かし、防衛装備庁ならではの**大規模研究開発プロジェクト**を**主導**



博士課程修了者の新卒採用状況 (総合職研究開発系技官)



- 毎年数名程度の博士課程修了者の**採用実績あり**
(数名程度/年)
- 多種多様な専門分野からの**採用実績あり**
(例：航空宇宙工学、バイオ情報科学、生命医用工学等)
- 上記に加え、**留学研修により採用後の職員の博士号取得も支援**

博士号取得者の活躍例

事例① 博士(理学)、R2入庁
博士課程の研究テーマ：画像処理技術

画像処理の研究経験と専門性を活かし、誘導武器に使用されるセンサーの研究開発に従事。



事例② 博士(工学)、H28入庁
博士課程の研究テーマ：生体医療工学
工学系の研究経験を生かしつつ、入庁後は主に艦艇装備分野の研究開発に従事。水上無人機(USV)の大型研究開発プロジェクトを担当し、海上自衛隊を含む関係者との調整をリード。**培った調整能力を活かし次期戦闘機の開発計画の検討に従事。**

事例③ Ph. D.*、H5入庁
博士課程の研究テーマ：流体構造連成解析
入庁後の海外留学で博士号を取得。令和6年度に設立された次期戦闘機開発の国際機関の技術系トップとして、その準備段階から、英・伊各国との調整を通じた技術面からの事業推進し、プロジェクトの基盤を固める役割を担うなど活躍中。

*博士号に相当